

令和7年度第1回千葉県がん教育推進協議会議事録

1 日 時 令和8年1月9日（金）午後3時00分から午後3時55分まで

2 場 所 WEB会議（Zoom）

3 出席委員

金田会長、加藤委員、五十嵐委員、野田委員、細井委員、富田委員、近藤委員、長田委員、永瀬委員

4 議題

（1）報告事項

- ① がん教育に係る外部講師派遣について
- ② 外部講師を利用したがん教育の実践～3STEP 授業～

5 議事内容

（1）報告事項

- ① がん教育に係る外部講師派遣について
【事務局より資料1に基づき説明】

○加藤委員

実施件数は全学校当たりどのくらいのパーセンテージになるのか。また、ここ3、4年外部講師の活用がうまく実行されているのか。実行されていなければ何が必要なのかお聞きしたい。

○事務局

パーセンテージは出していない。件数は一昨年から比べると増えている。昨年度と今年度の件数を比べると、昨年度は40校実施し、今年度は12月5日時点で36校となっており、その後、申込は来ていない状況のため、今年度の実施校はこのままの校数と想定している。

○加藤委員

件数を増加させるための働きかけが必要かと思うが、いかがか。

○事務局

今年度は、何回かに分け、学校に周知をしている。ただ、1回のがん教育の外部講師派遣にて全学年を対象に実施している学校がいるため、今年度の件数が下がった要因と考えている。

○加藤委員

文部科学省実施の「令和４年度におけるがん教育の実施状況調査の結果について」を見ると外部講師の活用状況の割合について大体１０パーセントくらいが全国平均のようなので、それよりは少ない感じがしたため、質問をした。

○野田委員

昨年度、今年度と４０件前後、外部講師の派遣が行われているが、がん体験者の派遣をしてほしいという希望はないのか。がん体験者の派遣について依頼がないという状況について理由を聞いていれば教えてほしい。

○事務局

今年度、がん体験者の派遣の希望についてはなかった。ただ、学校と希望機関との話し合いでがん体験者の話が合ったほうが良いのではということになったようで、希望機関の医療職とがん体験者が派遣されたというのは把握している。

また、医療機関からがん体験者を派遣できるというところもある。そのため、来年度以降はがん体験者の話を聞きたいというところも増えていくのではと考えている。

○野田委員

がん体験者の派遣というところで後押しするものがないと、活用が進まないというところで問題を感じている。

○金田会長

報告事項２でがん体験者のがん教育について話があるため、そこで議論ができたらと思う。また、事務局からの説明で、がん体験者が派遣されたという実績があるということなので、令和７年度の実績のときなどにも参考にできたらと思う。

加藤委員よりパーセンテージについて話があったが、比較をすると少ないかもしれない。県として目標にしているところはあるのか。あるいは、目標通りで、このまま横ばいで良いのか方針を教えてほしい。

○事務局

外部講師の派遣の件数について、把握しているのは本事業を活用して派遣を行っている件数であり、全部の学校にアンケートをとり、外部講師を活用しているか聞いているわけではないため、パーセンテージの把握は厳しい。

② 外部講師を利用したがん教育の実践～３STEP 授業～

【市川市立第二中学校 小林教諭より資料２に基づき説明】

○金田会長

中学校でがん教育を実施しているということだが、何歳くらいから実施すると効果的と思われるか。小学生に実施するとしたら何歳くらいから理解してくれる

か等教えてほしい。

○小林教諭

本校では中学２年生に設定して行っている。理由として中学３年生では修学旅行、受験がある。中学１年生ではがん教育自体を受けていないので、導入としてがんカルタなどから始め、本格的な内容は中学２年生という形をとっている。委員会の活動でも中学２年生が主となって行っているので、中学２年生に授業を行うのが効果的だと思い、実施している。

また、小学生への実施ということについて、小学校から依頼がありがん教育を行ったことがあるが、小学６年生の希望をいただくことが多い。理解できる発達段階かということ、現場の先生はがんの経験者がいたり、小児がんの生徒がいたらということがあり、低学年だと難しいと考え、小学６年生の卒業間近の時期に呼んでいただくことが多い。

○野田委員

報告事項を聞き、県下の中学校に同じ様な形で実施できると良いと思った。このようながん教育があるということを広く知ってもらうために、他の学校の先生方や、あるいは協力したいと思っているがん経験者の方たちに授業の見学をさせてもらうようなことが今まであったのか、今後そのようなことを実施できるような見込みがあるのか教えてほしい。

○小林教諭

他の学校へ異動した後、この取組が続かないのではということを危惧しており、後進の指導のために分掌を作るところから始めている。教員へ研修をしたとしても、日々忙しく、取り入れる必要性があるのかということ、どこから始めたら良いかわからないというところがあり、広げ方について悩んでいる。

市川市で保健主事をしていた時に本校の取組について伝え、いつでも協力できると話している。また、他にもがんサバイバーで話ができると言ってくれる方もおり、生徒にとって色々な方の話を聞くのは学びになると思う。

今年、実施した３ステップのがん経験者体験記の授業に関して、市内の教員のメールで案内を出し、希望者に見学に来ていただくということを行った。

○金田会長

がんがどうしてもできるのかや、がんの予防についての話に加え、がん経験者のお話をお伝えしている。そのバランスや、重視すると良い点、どんなコンビネーションにすると生徒に向けて良い教育ができるか、等の感触を教えてほしい。

○小林教諭

今まではがんの発生等の基礎知識を伝えただけで、経験談を話していたが、時間が足らず、今回棲み分けをし、保健体育科の話、専門家の医師の話、体験した話を各々で行い、それぞれの強みを、それぞれが話すのが良いと考えている。

○五十嵐委員

個人の努力だけでは全県に広まるわけではないので、広められるようにしてほしい。また、このような取組は少しずつ広まっていると思うので情報を拾い集め、共有してほしい。

○小林教諭

私自身が行えることは行いたい。全県のがん教育の向上を図る取組について一緒に考えて行えたらと思っている。

○金田会長

事務局から何かあるか。

○事務局

報告事項2のようながん教育の授業の行い方があるということを委員の方に知っていただき、各委員の所属団体へ広めてもらい、いずれは全県に周知出来たらと思い、今回、お話していただくようお願いをした。ぜひ、皆さんの所属団体で広げてほしい。

○加藤委員

今後、取組を進めていくに当たり、県の分掌はどこが担うことになるのか。

○事務局

連携をとりながら行うこととなる。

○加藤委員

このような話は立ち消えになってしまうこともあるため、各課の調整をしていただきたい。

○金田会長

学校の中のがん教育を推進するリーダーがいると報告事項2のような取組が定着すると思うが、学校でこのような取組が定着するにはどういったことに注意をしたらいいということはあるか。

○小林教諭

学校の先生方もやりたいし、必要だということはわかっているけれども、どこから始めたらいいいかわからないというところがあると思うので、進め方を研修で教えていただいたり、レクチャーを受けたりというところがないと、やりたい気持ちはあっても難しいという先生は多いのかなと思う。

○金田会長

モデル授業のような形や見学等があるといいのかもしれない。

その他、何か御発言はあるか。

(発言なし)

本日の準備された議題は以上で終了する。

【議事終了】